



ゆきまつびょうぶ
綴プロジェクト作品 国宝 雪松図屏風
円山応挙 筆 寄贈先・原本所蔵：三井記念美術館

日本の美を継承していくために
綴プロジェクト作品(高精細複製品)
◆ 国宝 ◆
『雪松図屏風』 円山応挙 筆

Vol.11

綴TSUZURI
文化財未来継承プロジェクト

京、町人文化の爛熟期に生まれた円山応挙の傑作。円山応挙筆、国宝「雪松図屏風」は、十八世紀末、京都の豪商三井家の依頼で描かれたといわれる。当時の京都は町人文化が栄え、最新の中国画や洋画、博物学の写生図なども集まった。そこから遠近法と写実を学び、日本近代絵画の先駆者となった応挙の代表作が、この雪松図。右隻は超近景、左隻は遠景に松全体をおさめる。距離感の違う二隻を眺めれば、凛とした冬の気配に雪を被る松がそこに浮かびあがるようだ。リアルでありながら装飾的な二品。町人文化が育んだ応挙の技が冴える、時代の傑作である。現在、「雪松図屏風」は三井記念美術館に所蔵されています。二〇二二年に綴プロジェクトが寄贈した高精細複製品は、日本美術への理解を深める、日本文化を海外に伝えるなどをテーマに、小・中・高等学校での出張授業で活用されています。日頃、日本の文化や自然に触れる機会が減った子供たち。綴プロジェクトは、日本の美を知るきっかけづくりのひとつになっています。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品38作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報
国宝「雪松図屏風」は二〇一八年十二月十三日(木)～二〇一九年二月三十一日(木)に三井記念美術館「東京・日本橋」にて公開。綴プロジェクト作品は、出張授業で活用されます。

Canon